

飛ぶ場所 vol.24

Red Room Radio

レッド ルーム レディオ

作・演出 泊篤志

変ってしまう前に助けてください

変ってしまう私を許してください

私は何に変わろうとしているのでしょうか？

赤い部屋から発せられたメッセージを受け、

人々が集まってくる・・・。

2005年3月11日～13日

東京芸術劇場小ホール2

〒800-0033

北九州市門司区大里桃山町2-30

Tel/fax: 093-372-0299

<http://www.tobugeki.com>

info@tobugeki.com

はじめに

ゴミ溜めの様な芝居を作りたいと思った。
そう書くと随分汚い感じがするけれど。
「赤い部屋でゴミを煮込む」そんなイメージ。

私たちの住む世界は混沌としすぎていて、先行きは不透明。
世界を単純化しようとしたブッシュや小泉くんは支持を集めたけれど、
世界の潮流には太刀打ちできそうにない。
かえって複雑になってきた。

もっとミニマムな私たちの日常はどうだろう？
いつから私たちは隣人の顔を知らなくなったのだろう？
いつから私たちは隣人と顔を合わせても挨拶すらしなくなったのだろう？
いつから若者は返事が出来なくなったのだろう？
いつから若者は地べたに平気で座るようになったのだろう？
いつから殺人事件のニュースを聞いて特殊な事ではないと感じ、
興味を示さなくなったのだろう？
いつからヘアヌードが解禁されちゃったのだろう？
いつから戦争がゲームみたいになっちゃったんだろう？
隣の家の事は知らなくても、
グラビアアイドルのヘアのカタチは、イラクの惨劇は、知っている。
それらを疑問なく受け入れている私たち。
今もお隣さんではコッソリ殺人がおき、車上荒しが続発する。
そんな私たちの世界。

いいのかな？と思った瞬間、この世界はまるでゴミ箱だな、と感じた。
この世の中の種々雑多な出来事はすべてゴミだ、と。
僕とあの娘の複雑な事情も、彼と彼女のいかんともし難い出来事も、ぜーんぶゴミ！
ひとつひとつ取り出して、別の器に入れてみると少しは何か見えてくるんじゃないかな？
そのゴミが浄化するようなそんな器が欲しいと思った。

そこで「赤い部屋」というものを用意してみた。
うん、そこではどんなに汚いモノたちもトローリトローリと煮込まれて、
ああら不思議、何だか愉快なお芝居になりました。
そんなことになると面白いな。
ゴミはどうやって集めよう？
そうだラジオだ。
汚いものも悲しいものも楽しいものも悔しいものもやって来るだろう。
そこにはきっと僕も居て、あなたも居るに違いない。

泊篤志

2003～2004の飛ぶ劇場…。

2003年8月は北九州芸術劇場・小劇場の柿落としを『生態系カズクン』『カズクン、旅に出る』の2本立て公演で実施、オープンそうそう“囲み舞台”という使い方で小劇場の自由性をアピールし、2本の独立した作品が次第に繋がってくるという演劇ならではの面白みで話題になりました。そして、10～11月には座付き作家の泊が北九州芸術劇場プロデュース第一作『大砲の家』を書き下ろすなど、名実ともに北九州に飛ぶ劇場ありき！をアピールした1年でした。

そして2004年、新作『Red Room Radio』で北九州・福岡・宮崎で公演し、新生「飛ぶ劇場」を印象付けました。また、秋には国民文化祭グランドフィナーレの音楽劇『エターナリー』(総合演出：横内謙介)の脚本、北九州芸術劇場プロデュース『冒険王04』(演出：岩崎正裕)の脚本を泊が担当し、飛ぶ劇場の俳優も多数出演して、まさに飛ぶ劇場が2004年の九州演劇シーンをリードしてきました。

飛ぶ劇場の新作『Red Room Radio』は何系の芝居か？

さて、飛ぶ劇場の最新作が2005年3月、いよいよ東京に登場です。

タイトルは『Red Room Radio』。

この作品は、社会派な作品から土俗的な作品、恋愛作品など様々なスタイル、テーマで世界の有り様を描いてきた泊篤志の集大成的な作品となっています。

出演するのはもちろん飛ぶ劇場オールキャスト。

既に全国レベルとも言われる充実の役者陣15名が暴れまわります。

社会派作品か？

泊作品の軸のひとつに『機械が見れる夢が欲しい』『IRON』『大砲の家』など、今現在世界で起こっている出来事から着想を得た作品群があります。『Red Room Radio』は、ラジオ番組に寄せられたリスナーからのメールメッセージが番組で読まれる(放送される)ところからお話が始まります。インターネットの匿名性、個人主義、住居の閉鎖性など、隠蔽された人々の生活の陰部をラジオに乗せた音楽とトークで繋いでいきます。

土俗的な作品か？

『ジエンドオブエイジア』『生態系カズクン』『ロケット発射せり。』など、泊作品には独特の土俗的な趣味が垣間見えます。閉鎖されたコミュニティとそこに訪れる他者の関係は、最新作『Red Room Radio』でも健在です。この味付けこそ泊ワールドの真骨頂です。

恋愛作品か？

『ミモココロモ』『カズクン、旅に出る』など近年の作品では、恋愛・人生といったテーマで作品を発表している泊ですが、最新作『Red Room Radio』でも、もちろん恋愛モード全開です。ラジオ番組で集まってきた人々の、理屈ではない、どうにもならないココロのヒダを惜しげもなく描いていきます。

つまり…

それら全ての要素が詰まった作品が今回の『Red Room Radio』なのです。

赤い部屋の魔力でジックリ煮込んだ極上のエンターテイメントをエキセントリックにお届けします。

Red Room Radio ストーリー

変わってしまう前に助けてください
変わってしまう私を許してください
私は何に変わろうとしているのでしょうか？
ラジオ番組『Red Room Radio』から寄せられたメッセージを受け、
互いに素性を知らない人々が集まってくる。
彼らは「変わってしまう前に助けてください」という匿名のメールがラジオで読まれたことで、
集まって来てしまっていたのだった。
メールは誰が出したのか？変わろうとしているのは誰か？
なぜ、皆、そんな放送だけで集まってしまったのだろうか？
やがて見えてくる互いに共通した、事項、変化、事件。
ラジオからはまた別のメッセージが聞こえてくる・・・。

公演概要

東京公演 東京国際芸術祭参加公演

【東京芸術劇場・小ホール2】

日程 / 2005年3月11日(金) 19:00
12日(土) 15:00
13日(日) 15:00 *開場は開演の30分前

チケット / 一般前売 2,800円 (当日3,000円) *全席指定

2005年1月14日発売開始

チケット取扱い

電子チケットぴあ

0570-02-9999(音声自動認識)

0570-02-9966(Pコード 358-568)

ファミリーマート・セブン-イレブン・サンクス

東京国際芸術祭(TIF)

TEL 03-5961-5202

Web site <http://anj.or.jp>(web上でチケット予約ができます)

お問い合わせ 飛ぶ劇場 TEL&FAX / 093-372-0299

TIF TEL / 03-5961-5202

スタッフ

作・演出：泊 篤志

舞台監督：福田修志 (F's Company)

舞台美術：柴田隆弘

照 明：乳原一美

音 響：杉山 聡

衣 裳：内山ナオミ(工房MOMO)

小 道 具：橋本 茜 (Art Stage-KenTa)

キャスト

寺田剛史、内田ゆみ、橋本茜、有門正太郎

鵜飼秋子、北村功治、藤原達郎、権藤昌弘

内山ナオミ、門司智美、葉山太司、藤尾加代子、

木村健二、加賀田浩二、桑島寿彦

(全15名)

飛ぶ劇トピックス

【泊篤志、寺田剛史、東京国際芸術祭リージョナルシアターシリーズ5周年特別企画に参加】

99年に始まったリージョナルシアター・シリーズが5周年特別企画としてプロデュースした短編二本『いちごの沈黙』『コイナカデアル。』に、『コイナカデアル。』演出として泊が、役者として寺田が参加しました。「国道、書類、風呂桶。」を共通のキーワードに、鈴江俊郎氏が『いちご』を深津篤史氏が『コイナカ』を書き下ろし、それぞれをはせ氏と泊が演出するという企画。難解な迷宮の様な作品を緊迫感あふれる演出で見せた『コイナカ』は東京と長久手で上演され話題となりました。

東京公演 / 3月6～7日 長久手公演 / 5月8～9日 京都公演 / 6月19～20日

【泊篤志、寺田剛史、有門正太郎、橋本茜、創作ネットワーク委員会+Ort-d.dプロデュース『昏睡』に参加】

日本各地を拠点に活躍する演劇人たちが、各地で7編の短編を創り上げ、1つの作品として結集する…『昏睡』公演に泊が1編の演出を、寺田・有門・橋本が俳優として参加します。

宮崎公演 / 2月12～13日 山口公演 / 2月19～20日 東京公演 / 2月24～28日

「飛ぶ劇場」劇団紹介

1987年結成。北九州市を本拠地に、東京など全国へ出向いている。'92年には『イムズ芝居』最優秀劇団に選出され、イムズホールの舞台を踏む。'93年、現代表の泊が東京からUターンし、作・演出として劇団の方向性を舵取りする。'97年、泊篤志が作品『生態系カズクン』で第3回日本劇作家協会新人戯曲賞を受賞。2000年、作品『IRON』が第44回岸田國土戯曲賞の最終候補作となる。（『IRON』より、ツアー演目については動員1000人を越え続けている。）

日常の機微をあっけらかんと描く脚本と、方言などによる血の通った言葉へのこだわり、歌や舞踊での「祝祭」としての高揚を重視した演出を展開している。

構 成

現在21～37歳の、男性13人・女性7人。

作品事に客演やオーディション合格者等を交えてキャストを構成する。

代 表

泊 篤志 とまり・あつし

1968年生。北九州市門司区出身。北九州大学に在学中、演劇研究会で上演作品の執筆・演出を担当。

後、東京で約2年TVゲームのシナリオ等の仕事をし、北九州へUターン。'93年「飛ぶ劇場」に復帰し、以来、脚本・演出を担当。後'95年に劇団代表を引き継ぐ。新しい要素を取り入れつつも娯楽性を忘れない姿勢で作品創作に取り組む。「北九州演劇祭事務局」勤務を経て、現在「北九州芸術劇場」学芸係ディレクターとして勤務。

'97年『生態系カズクン』で「第3回日本劇作家協会新人戯曲賞」受賞。

他'97年は、北九州演劇祭5周年特別合同公演『アリスな出来事』の演出を担当。

'99年、作品『IRON』が第44回岸田國土戯曲賞最終選考（6作品）にノミネートされる。

2002年は長崎市少数参加型舞台『生態系カズクン』の演出を務める。

中間市演劇セミナー99年度講師、「北九州青年みらい塾」新入スタッフセミナー講師、北九州大学文学部比較文化学科特別講義講師など、各種ワークショップの講師を務め、外部脚本執筆、雑誌や新聞のコラム連載なども手がけている。

代表作品（脚本・演出）

『冒険王』、『ジ エンド オブ エイジア』、『機械が見れる夢が欲しい』、『生態系カズクン』

『IRON』、『ロケット発射せり。』、『ミモココロモ』、『大砲の家』他